

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月2日 (金)

会場 日立市民運動公園中央体育館

【男子の部】 第1日目 Aコート 第1試合

チームA 県立八千代 千葉	104	{ 21 1Q 15 28 2Q 17 22 3Q 20 33 4Q 18 OT	70	チームB 県立城東 徳島
---------------------	-----	---	----	--------------------

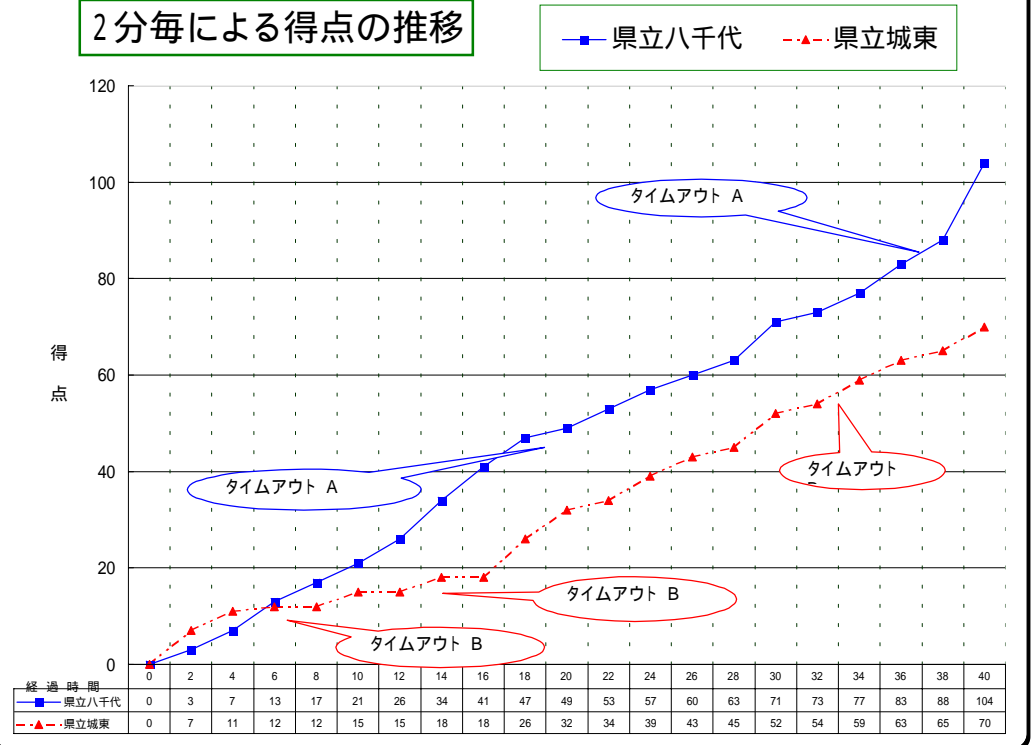
県立八千代

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	庄村 裕介	15	0	2	5	10	5	8	1	0	4	1	4	6	0	29
5	村上 憲史	13	1	1	3	4	4	7	0	0	1	2	2	1	0	11
6	角谷 尚謙	11	0	0	5	12	1	3	4	0	3	1	2	5	1	15
7	横井 健	9	0	0	2	3	5	6	1	1	2	0	1	0	1	11
8	結城 博志	4	0	1	2	2	0	0	1	2	5	2	0	0	1	29
9	菊地 哲平	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	2	1	1	0	7
10	井上 拓也	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
11	小泉 雅人	4	0	0	1	1	2	2	0	0	2	1	0	0	0	10
12	加藤 隆一	21	2	12	6	13	3	4	3	4	5	2	3	2	1	29
13	福原 大輝	4	0	0	2	5	0	0	1	1	6	0	1	0	0	23
14	藤橋 洋輔	5	1	1	0	1	2	4	0	0	0	0	1	1	0	4
15	綿貫 史宏	18	0	1	5	13	8	10	2	4	2	1	2	0	1	29
コーチ	中嶽 誠								0							
		104	4	19	31	65	30	44	18	12	31	12	17	16	5	200
		確率	21.1%	47.7%	68.2%				計	43						

県立城東

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	楠 幸司	26	0	1	10	26	6	6	2	3	8	0	0	2	1	40
5	澤口 拓	7	0	0	2	6	3	6	4	6	15	3	0	0	2	37
6	笠井 宏典	7	1	6	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	15
7	有井 敬謹	6	2	5	0	0	0	0	5	0	2	3	4	1	0	23
8	梶川 雄太	13	3	12	1	4	2	2	5	0	1	8	1	2	0	38
9	泰地 章公	3	1	4	0	0	0	0	4	1	2	2	0	1	0	13
10	峯野 准次	1	0	2	0	0	1	2	3	0	0	1	0	0	0	4
11	山崎 和夫															DNP
12	山川 博史	7	0	4	3	6	1	2	4	0	0	3	3	2	0	24
13	河端 理人	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	0	1	0	4
14	岩田 浩平	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
15	板東 賢一															DNP
コーチ	古海 圭二								0							
		70	7	34	18	44	13	18	31	10	29	23	8	9	3	200
		確率	20.6%	40.9%	72.2%				計	39						

2分毎による得点の推移



戦評

城東はーフコートマンツーマン、八千代はオールコートゾーンプレスで試合開始。八千代は5人共選手交代することで2種類のディフェンスを使い分ける。序盤お互いにシュートが決まらずペースがつかめない。残り3分頃から八千代に速攻が出て、21 - 15と八千代6点リードで第1P終了。

第2Pに入ると八千代のディフェンスが良くなり、激しいディフェンスから速攻を出し、開始3分で八千代が11点差をつける。その後城東は八千代のーフコートのゾーンディフェンスを攻め切れず、八千代が47 - 21と点差をひろげる。残り3分頃から城東もオールコートで当たり、#12山川の速攻などで盛り返し、49 - 32と八千代17点リードで第2P終了。

第3P城東はディフェンスを変えペースをつかもうとする。城東#8梶川の3Pや#4楠のシュートが決まるが単発に終わる。逆に八千代は5人の選手交代を繰り返しペースが乱れず、速攻が良く出るようになり、71 - 52と八千代リードで第3Pを終える。

第4Pに入って城東はオールコートで当たってきたが、八千代はリズムを崩すことがない。結局選手交代を繰り返し、ゲームを通じて全員で走った八千代が104 - 70で勝利をつかんだ。

主審 田島 寛治

副審 佐藤 賢佑

記入者 野崎 環